

全体会

開会式

開会宣言

笹原 靖直

富山県地域振興団体協議会
過疎地域振興部会長
朝日町長

主催者挨拶

鈴木 淳司

総務大臣

遠藤 雄幸

(阿部 守一会長代理)
(一社)全国過疎地域連盟理事
福島県川内村村長

歓迎挨拶

新田 八朗

富山県知事

開会宣言



笹原 靖直 氏

富山県地域振興団体協議会過疎地域振興部会長
朝日町長

皆様こんにちは。ようこそ富山県へお越しくださいました。本大会には多くの皆様にご参加いただきまして、心より感謝を申し上げます。実り多き大会になることを願っております。

それではただいまより、「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」を開会いたします。どうぞよろしく願いたします。



主催者挨拶



鈴木 淳司 氏

総務大臣

総務大臣の鈴木淳司です。

「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日まで参加の皆様には、日頃より過疎対策をはじめ、地方行政全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

現在我が国では、人口減少、少子高齢化が進み、とりわけ過疎地域において、その傾向が顕著になっておりまして、地域社会を担う人材の確保などが喫緊の課題となっております。

これらの課題は深刻ですが、各地域の創意工夫を凝らした懸命の努力により、課題の解決に向けた着実な動きも見られます。

本日、過疎地域の課題解決に繋がるすばらしい取り組みを総務大臣賞として表彰させていただきます。

開会宣言をされた富山県朝日町では、「共助型マイカー乗り合い公共交通サービス」を開始し、高齢化する住民の足の確保に取り組んでおられます。

宮城県丸森町では、東日本大震災等を経て、地域運営組織において、住民自らが移動販売ガソリンスタンドの承継など、暮らしを守り、特産品のブランド化などの活動を続けておられます。

新潟県長岡市では、旧山古志村の地域づくりに取り組む団体が、最新デジタル技術を活用して、世界中から知恵や資源、資金を集め、デジタル村民とともに地域を存続させる挑戦をしておられます。

このほかにも全国過疎地域連盟会長賞を受賞される5つの事例におきましては、農業振興や観光、移住促進など、地域資源を生かした取り組みを進めておられます。

関係者のご尽力にここで改めて敬意を表します。

さて、今回の全国過疎問題シンポジウムでは、副題を「多様な人材が創るこれからの地域社会」としておられます。

開催地の富山県では、暮らす人、訪れる人、生まれ育った人など、愛着を持って関わるすべての人を富山の仲間とする「幸せ人口1000万人」を目指していると伺っております。

このように、多様な価値を持つ人材が集まることによって、地域資源の価値を再認識することによって、誇らしく生きやすい地域社会の実現に繋がっていくと思っております。

総務省としましても、地域おこし協力隊や地域活性化起業人など、地域の人の流れの創出を支援して参ります。

このシンポジウムを通じて、こうした多様な人材による地域創造の方策や具体的事例について、活発な議論が展開され、各地域での活動のさらなる発展に繋がっていくことを期待しております。

結びになりますが、このシンポジウムの開催にあたりご尽力賜りました、富山県をはじめ、関係者の皆様にご深く感謝申し上げますとともに、本日の議論が実り多きものとなり、皆様の今後の取り組みに活かされることを祈念申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

主催者挨拶



遠藤 雄幸 氏

(阿部 守一 会長代理)
(一社) 全国過疎地域連盟理事 / 福島県川内村村長

全国過疎地域連盟理事福島県川内村村長の遠藤雄幸と申します。

会長の阿部守一長野県知事が出席いたしまして、皆様方にご挨拶申し上げる予定でしたが、急遽出席がかなわなくなったため、ここで会長の挨拶文を代読させていただきます。

本年6月に開催されました第55回総会におきまして、全国過疎地域連盟の会長に就任しました、長野県知事の阿部守一でございます。

一言ご挨拶を申し上げます。

本日「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

地元の富山県をはじめ、開催にあたりご尽力をいただきました多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

また本日栄えある過疎地域持続的発展優良事例の表彰を受けられます皆様方、誠におめでとうございます。

過疎地域の持続的発展を目指し、創意工夫が図られた皆様の取り組みに深く敬意を表します。

さて、過疎地域は豊かな自然に恵まれ、農林水産業の発展、成長に密接に関わるなど、地域経済の循環や自然環境の保全等に貢献しており、国土の多様性を支える重要な役割を担っています。

その一方で、多くの過疎地域では、急速に人口減少や少子高齢化が進行しており、地域経済の縮小や担い手不足など、過疎地域を取り巻く環境は厳しさを増しており、地域住民の生活に必要なサービスを行うための財源の充実、確保が重要な課題となっています。

今回の全国過疎問題シンポジウムは、過疎地域の可能性について、新たな気づきや発見がある場とするとともに、全国の優れた取り組みにふれ、参加者相互の交流を図るなど、人と人との繋がりを通じて、将来に向けた取り組みを考える契機を目指しています。

結びに、本シンポジウムが実り多く、意義深いものとなりますとともに、ご参加いただいた皆様のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げ、挨拶といたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。



歓迎挨拶



新田 八郎 氏

富山県知事

「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」開催に当たりまして、開催県知事として、一言ご挨拶を申し上げます。

総務省地域力創造審議官の山越伸子様をはじめ、ご来賓の皆様方、また全国各地からご参加の皆様にはようこそ富山へおいでいただきました。県民を代表して心から歓迎を申し上げます。

本日お集まりの皆様におかれましては、日頃から過疎地域の振興に力を尽くしていただいております。深く感謝申し上げます。

また後程、栄えある優良事例表彰を受賞される8団体の皆様には、心からお喜び申し上げますとともに、敬意を表したいと存じます。

さて、今回のシンポジウムのテーマは「ウェルビーイング先進地域～多様な人材が創るこれからの地域社会」となりました。

これからの過疎地域には都市部にはない豊かな地域資源を生かして、人々が幸せに生き続けることができる仕組みづくりが求められており、その実現には多様な人材の確保、育成が重要とされています。

この考え方は、次世代の新たな価値を生む人材が育ち、またそうした富山県に県外から引き寄せられた人材が集積する、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」という、ちょっと手前みそですが、本県の成長戦略のビジョンと重なるところが多いと考え、今回のシンポジウムのテーマとさせていただきます。

今回のシンポジウムが過疎地域の可能性について、気づきや発見がある場となり、全国各地でウェルビーイングの花が咲きほこることを願ってやみません。

明日は朝日町、氷見市、そして南砺市において、分科会も開催されます。

ぜひ各地域の特色ある取り組みや魅力を見て感じていただき、過疎ならではのウェルビーイング事例をお持ち帰りいただければ幸いです。

そして、しっかりと学んでいただいた後、シンポジウム終了後は、お時間の許す限り、富山県の豊かな自然、食、歴史、文化を体感していただければと思います。

結びに、本大会の開催にあたり、お力添えを賜りました皆様へ心から感謝を申し上げ、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございます。よろしく願いいたします。

